

004 TICA

著作	著者	あらすじ・感想
震える牛	相場英雄	<p><消費者を欺く企業。安全より経済効率を優先する社会。命を軽視する風土が、悲劇を生んだ>あまりに安いものはやっぱり疑ってみないといけない。安いからとハンバーガーを喜んで食べている娘に禁止令をだしたいが、安い=悪いとなるのも怖い。加工されたものを食べていてなんだけれど、題名の姿の描写の箇所はかわいそうで読めなかった。肉を食べるのをやめたいってこういうときに思う。せめて食べるときは命をいただきますと手を合わせて感謝の気持ちを忘れずにしたいが、感謝されて食べられる矛盾を牛は思うよね。</p>
紙の月	角田光代	<p><わかば銀行から契約社員・41才の梅澤梨花が1億円を横領した。梨花は海外へ逃亡する。彼女は、果たして逃げ切れるのか>「お金というのは多くあればあるだけ見えなくなる。なければつねにお金のことを考えるが、多くあれば、一瞬でその状態が当然になる」確かに。わたしは今お金がよおしく見えています。</p>
虚像の道化師 ガリレオ7	東野圭吾	<p><指一本触れずに転落死させる術、他人には聴こえない囁き、女優が仕組んだ罠...刑事はさらに不可解な謎を抱え、あの研究室のドアを叩く>解決が理系の説得なので、これとこれを合わせるとこうなるんですっ！と言われれば、はあそうですか...とただ受け入れるのみ。推理のしようがないガリレオの読み方は「文字を追う」です。</p>
ロスジェネの 逆襲	池井戸潤	<p><ときは2004年。銀行の系列子会社東京セントラル証券の業績は鳴かず飛ばず。そこにIT企業の雄、電脳雑伎集団社長から、ライバルの東京スパイラルを買収したいと相談を受ける。アドバイザーの座に就けば、巨額の手数料が転がり込んでくるビッグチャンスだ。ところが…。胸のすくエンタテインメント企業小説></p>
鍵のない夢を 見る	辻村深月	<p><普通の町に生きる、ありふれた人々がふと魔が差す瞬間、転がり落ちる奈落を見事にとらえる5篇。現代の地方の姿を鋭く衝く短篇集>辻村深月っぽくない平坦なストーリーが並ぶ。ミステリー作家の直木賞受賞作なので「容疑者X〜」「理由」みたいなものを思っていたので、かなりの肩すかし。直木賞狙いで書いたのかと思ったが、狙うほどの作品でもない。でも獲っちゃったんだけどね。</p>

団地ノ記憶	長谷聰 照井啓太	<p>＜団地サイト「団地百景×公団ウォーカー」が満を持して贈る団地写真集。広い芝生にレトロな遊具、シンボリックな給水塔にかわいい小道＞朝日新聞で連載している丸田祥三の「幻風景」は、切なささえも洗練されているが、この団地の写真集は切なさのない昭和の野暮ったさ。丸田祥三がタモリなら団地はタケシといったところ。で、わたしはやっぱりタケシが好き。</p>
癌だましい	山内玲南	<p>＜末期癌を患いながら執筆、文学界新人賞受賞の10日後、世を去った。いまだかつてない闘病小説＞表題作の「癌だましい」と「癌ふるい」の二編の中編。著者は「癌だましい」で文学賞を受賞し「癌ふるい」を脱稿した十日後に52才で亡くなっている。「癌ふるい」は癌のIV期に入ったと100人にメールで伝え、その返信の内容に点数をつける。病気になった自分と自分に対する周囲の反応を俯瞰しているようだ。食べたら吐くのにそれでも食べようとする「癌だましい」の激しさとはまるで違うが、他人に何かしら期待してメールを送り、そして落胆や絶望する方が辛い。IV期だと伝えているのに、お医者さんはなんていってるのかなんてとんちんかんな返事が来たらそりゃ絶望しかない。</p>
春から夏、 やがて冬	歌野晶午	<p>＜スーパーの保安責任者の男と、万引き犯の女。偶然の出会いが神の思い召しか、悪魔の罠か。これは“絶望”と“救済”のミステリー＞歌野晶午にはどんでん返しの期待が高くなるのを差し引いても、この終わり方は仕掛けがなさすぎる。ますみのキャラクターが好きじゃないままなので、年齢が同じというだけで情をかけ支援をしたいという気持ちもわからない。小瀬木が最後を締めるが、もっと活躍して話を動かしてもよかったんじゃ。</p>
新装版 ROMMY 越境者の夢	”	<p>＜人気絶頂の歌手 ROMMY が、絞殺死体となって発見された。一瞬目を離した隙に、ROMMY の死体は何者かに切り刻まれ、奇妙な装飾を施されていた—。天才歌手に隠された驚愕の真相とは＞</p>
臨床心理	柚月裕子	<p>＜第7回(2008年)『このミステリーがすごい!』大賞受賞。臨床心理士と「共感覚」を持つ青年が、声の色で感情を読み取る力を使い、知的障害者施設で起こった少女の自殺の真相を追う＞「検事の本懐」が面白かったのでこれを読んだ。途中で犯人がわかってしまい、その犯人像も「基本に忠実」。これ</p>

		<p>が「このミス」の大賞作品とは…。「人の役に立つことである家族への謝罪になる」という加害者の一行の台詞だけで、怪我を負わせた家族を放置。きちんと本人が謝りに行くということを臨床心理士は指示して、心まで傷ついた家族のその後を書いてほしかった。あの家族も被害者になったことで心に問題を抱えてしまったんだから。</p>
「また、必ず会おう」と誰もが言った。	喜多川泰	<p>＜秋月和也は熊本県内の高校に通う17歳。小さな嘘が原因で、ディズニーランドへと行く羽目になるが、最終便の飛行機に乗り遅れてしまう。所持金は3400円＞高校生のロードムービー。でもこれはファンタジー。旅のありかた、人との出逢い、高校生の生き方、親子の関係の理想形。</p>
言霊たちの夜	深水黎一郎	<p>＜大手ゼネコンに勤務する田中は、学生時代にボクシングをしていたせいか、耳の聞こえが悪い。そのため友人宅に電話をしても、「嫁は寄生虫」「ひがんで実家に帰っている」などと聞き違えてしまう＞同音異義語などの言葉遊びの本と思いき、小林賢太郎に通じるものがあるかと読んでみた。ひとつの話はシモネタオンリー。シモネタ禁止条例がこの本においてくるようお願いしたくなったほど。こじつけもあまりにくどいと飽きる。やっぱりメフィスト賞を獲っている作家には要注意。</p>
噂	荻原 浩	<p>＜香水を売り出すため「この香水をつけていれば殺人鬼に狙われない」と噂を流す。香水は大ヒットするが、噂は現実となり…。衝撃の結末を迎えるサイコ・サスペンス＞サイコパスの話より、商品開発に利用した噂の流れ方が面白かった。父と子の関係はいかにも裏がありそうだったけれど、それを最後の一行だけで表したのは衝撃的。でもそれよりも衝撃的だったのは荻原浩と有川浩を混同していたこと。イメージが違うなと思ったのは当たり前。別人だもの。人間だもの。なぜ同時期にいる女性作家がそろって「浩」で「ひろ」なのでしょう。</p>
ストーリー・セラ	有川 浩	<p>＜小説家の彼女とその夫を襲ったあまりにも過酷な運命。極限の決断を求められた彼女は、今まで最高の読者でいてくれた夫のために、物語を紡ぎ続けた—。極上のラブ・ストーリー＞最近眠りが浅くゆうべも1時半に寝たのに目覚めたら3時ぴったり。眠れなくなり諦めて本を読み始めた。それがこれ。寝起きとは思えぬ速さで読み進み、気が付いたら77頁。中</p>

		<p>編が二編だからひとつでやめときゃいいのに、結局2時間半かけて一気に読み。このふたつの夫婦の物語は女性が描く女の人生としての最上級。こういう女性じゃないとこんな男性は来ないんだよねえと納得してみるが、現実はこの素敵な女性でもこんな素敵すぎる男はやって来ないんだろうな。あくまでも女目線での理想の男だもんね。</p>
<p>転迷 ～隠蔽捜査 4</p>	<p>今野 敏</p>	<p><相次いで変死した二人の外務官僚。捜査をめぐる他省庁とのトラブル。そして娘を襲ったアクシデント…。大森署署長・竜崎伸也に降りかかる難問の連鎖、やがて浮かび上がった驚愕の構図。すべては竜崎の手腕に委ねられた>図書館に予約して待つこと、9か月。このシリーズ好きだなあ…。</p> <p>話は、4回目になってずいぶん竜崎と伊丹が接近していた。伊丹のオトナの考えに、理解ができないと首をひねることで竜崎のまっとう性みたいなものが象徴されている。正論も理想論も行動が伴わないとただのめんどくさいヤツにされてしまうが、竜崎はこうなればよくなると思うことを黙々と遂行している。伊丹と友人ということにも、特別意識や優越感を持っていない。</p> <p>竜崎と伊丹を、ちょっと若いけれど、西島秀俊と大沢たかおのハンサムコンビをイメージして読みたいが、どうしても竜崎が段田安則になってしまうのが残念。</p>
<p>押入れのちよ</p> 	<p>荻原 浩</p>	<p><今ならこの物件、かわいい女の子(14歳・明治生まれ)がつかってきます……幽霊とサラリーマンの奇妙な同居を描いた表題作ほか、ぞくりと切ない9夜の物語></p> <p>それにつけても表紙の怖さよ。</p>
<p>珈琲屋の人々</p>	<p>池永 陽</p>	<p><東京の下町のある喫茶店『珈琲屋』が舞台。じんわりと温かい読後感があなたを包む。連作短編集>古臭い文章と話。なんてことないというわけでも話がないというわけでもない。けれどつまらない。一言でいえば昭和。まだ大正の、のすたるじあもなく昭和の野暮ったさも極まっていない薄さ。珈琲屋さんの小説なら「こんなお茶やさん、行ってみたい」と思ってもよさそうなものなのに、そうは思わせない作りものの感。芝居じゃなく演劇。最後の話なんて特に。</p>

<p>殺戮にいたる病</p>	<p>我孫子武丸</p>	<p><猟奇的殺人を重ねるサイコ・キラーが出現した。犯人の名前は、蒲生稔。冒頭から身も凍るラストシーンまで恐るべき殺人者の行動と魂の軌跡をたどる衝撃のホラー>途中でひっかかるところが何か所かあったけれど、こだわらないで気持ち良くだまされようと期待して読み進めた。</p> <p>叙述ものって作者は種明かしを短くしたいようだけど、え？って驚く間もなく話が終わってしまうので、え、ええーって取り残された気持ちになり、仕方なく頁を戻って確認する作業を行わないといけなくなる。最後の頁を一文字で終わった乾くるみがいるので短いのはもう諦めて、読み直す手間が省けるくらいは説明してほしい。</p>
<p>翼ある闇 メルカトル鮎 最後の事件</p>	<p>麻耶雄嵩</p>	<p><首なし死体、密室、蘇る死者、見立て殺人.....。京都近郊に建つヨーロッパ中世の古城を彷彿させる館・蒼鴉城を「私」が訪れた時、惨劇はすでに始まっていたのだ></p> <p>読書サイトで面白って推薦を受けて読んだが、久々の挫折本となった。推薦してもらうには、自分の情報をもっと出さないといけなかった。</p>
<p>阪急電車</p>	<p>有川 浩</p>	<p><恋の始まり、別れの兆し、そして途中下車.....関西のローカル線を舞台に繰り広げられる、片道わずか 15 分の胸キュン物語>「ストーリーセラー」で理想の男を書き、この本で理想の恋愛や他者とのふれあいを描いている。暴力男もダメ男も出てくるが、とても全うな恋愛話。恋の始まり方が綺麗すぎ、運命の人との出逢いが多すぎる。でも短い路線を往復する設定は好き。九州まで行かなくてこの路線にも小林駅があった(*^^)v</p>
<p>オーダーメイド殺人クラブ</p>	<p>辻村深月</p>	<p><中学二年のふたりが計画する「悲劇」の行方。親の無理解、友人との関係に閉塞感を抱く「リア充」少女の小林アン。普通の中学生とは違う「特別な存在」となるために、同級生の「昆虫系」男子、徳川に自分が被害者となる殺人事件を依頼する></p> <p>ラーメンズのコント「小説家らしき存在」の常居次人の言葉を想い出す。人は死ぬ気になれば、人生で一本は面白い小説が書ける、というようなこと。辻村深月のその一冊をわたしはもう読んでしまっているのかも。</p>

脳男	首藤瓜於	<p><連続爆弾犯のアジトで見つかった、心を持たない男・鈴木一郎。逮捕後、新たな爆弾の在処を警察に告げた、この男は共犯者なのか。男の精神鑑定を担当する医師・鷺谷真梨子は、彼の本性を探ろうとするが…。江戸川乱歩賞受賞作></p>
消失 グラデーショ ン	長澤 樹	<p><高校のバスケ部員椎名康は、少女が校舎の屋上から転落する場面に遭遇する。康は助けようとするが、少女は目の前から忽然と消えた。“真相”の波状攻撃、そして驚愕の結末。第31回横溝正史ミステリ大賞受賞作></p> <p>叙述ものって叙述というだけでネタバレになる。パターンがそれほどないからなのかな？これは叙述がどうの以前に面白くない。学校に同じ「症状」の人が三人もいる不自然だし名前や呼び方が卑怯。もっと正統な方法で勝負してほしい。</p>
花と流れ星	道尾秀介	<p><死んだ妻に会うために霊現象探求所を構えている真備。その助手の凜と、彼女にほのかな思いを寄せる、売れない作家・道尾。3人のもとに、傷ついた心を持った人たちが訪れる。心騒ぐ5編></p>
ヒートアップ	中山七里	<p><"ヒート"は、ドイツの製薬会社が局地戦用に開発した兵士のために向精神薬で、人間の破壊衝動と攻撃本能を呼び起こし、兵器に変えてしまう悪魔のクスリ。麻薬取締官の七尾究一郎が暴力団の山崎と事件を追う>だまそうとしたところが伏線というには目立ちすぎてこの人は違いとわたしでもわかってしまった。でも、これもまた最後は頁を戻す作業となりました。</p>
片桐酒店の 副業	徳永 圭	<p><法に触れない限り、何でも届ける片桐酒店。「アイドルに贈り物を手渡して欲しい」「上司に悪意を」などの難題に直面する無愛想な若き二代目店主、片桐章。彼もまた胸の奥に大きな遺失物を抱えていた>片桐さんの抱えている事情が案外ありきたりだったけれど、「悪意」を配達するっていうのは面白かった。とはいえ、「福山酒店」だったら読まなかったかも。</p>

恩田陸「夢違」が日本テレビの「悪夢ちゃん」ってドラマだとしばらくして知った。この題名の温度差はなに？ 「ビブリア古書堂」もドラマ化され、ネットでは栞子さんがミスキャストだと悲鳴があがっていた。もちろんわたしも同じ思い。せめて綺麗な女優さんだったらよかったのに。

○ 昭和元禄落語心中 1～2 雲田はるこ

この漫画家さんは「舟を編む」の装丁を描いた人。そのときからへたな絵だと思っていた。が、娘に言わせると、内容はともかくこの人の絵を下手だという人が信じられないって。イマドキの絵ということなんだろうか。

落語の漫画なら、逢坂みえこさんの「たまちゃんハウス」の方が圧倒的に絵もうまいし話も面白い。

○ 永遠の野原 ～逢坂みえこイラスト集

パステル画で描かれた単行本の表紙がまとめられている。

絵はきれいだし、みかんは可愛いし、ほかの漫画のきれいちゃんたちもいて見ていて楽しくなる一冊。

20年近く前に発売された本が、綺麗なまま1円で買える時代。

嬉しいけれど、悲しくもある。けれど、手に入ったことは・・・やっぱり嬉しいの勝ち(^^)

